

渡辺復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成30年12月5日(水)1440～1446於) 東京電力福島第一原子力発電所)

1. 発言要旨

本日、中間貯蔵施設と、ここ東京電力福島第一原子力発電所を視察しました。

中間貯蔵施設では、受入・分別施設や土壌を貯蔵する施設を視察し、作業が着実に進展していると感じました。

引き続き、安全の確保に万全を期して作業を進めていただきたいと存じます。

東京電力福島第一原発では、最新の廃炉・汚染水対策の取組を視察させていただきました。

具体的には、3号機の使用済燃料の取り出しに向けた作業、凍土壁等による汚染水対策の取組、作業の方々の労働環境などを視察し、また、平成26年6月には衆議院経済産業委員会の理事として、こちらに視察に来ましたけれども、そのときに比べまして対策が大きく進捗しているということを実感しました。

復興庁としても、引き続き、廃炉・汚染水対策が安全かつ着実に進められるよう、関係省庁と連携し、福島のリ新生に向けて取り組んでまいりたいと存じます。

2. 質疑応答

(問) 7年過ぎて、就任されてから初めて入りましたけれども、変化ですとか、感想、所感というのを、ちょっともう一回お聞かせいただいてもよろしいですか。

(答) 1Fの関係で。

(問) そうですね、1F。

(答) 実は、先程申し上げましたけれども、経済産業委員会理事として、こちらにお邪魔させていただきました。そのときの状況に比べたら、まずは、それぞれ第1、第2、第3、第4の各号機については、大分変わったなと、進捗したなというふうに思っております。以前の、視察のときの状況は全身を覆うタイベックスで視察をさせていただきましたが、本日はその廃炉の手續、廃炉を進めている場所、3号機に入るときだけ、その服装で入ったわけがありますけれども、その他の間は、大分今までと違って視察しやすい環境にあったということは、少なくとも労働環境が大きく変わったのではないかな、そのように思っております。

そして汚染水対策についても、私が4年前に行ったときは、まだ凍土壁が実施されてない状況でありました。今回は、凍土壁が機能し、そして凍土壁の外と内の差というのをこの目で確認するこ

とができました。

そういった意味においてはですね、大きく汚染水対策も十分できてきたなというふうに感じております。

(問) もう一点よろしいですか。

3号機の方ですね、核燃料の取り出しが遅れているとか、トラブルとかございますけれども、そのあたりに関しては、今日視察もされたのも含めてですね、どのようにお考えでしょうか。

(答) 今回、トラブルがあって、開始が遅れておりますけれども、まず少なくとも再発防止をしていただいて、年内目途に設備全体の安全点検や品質管理の確認を実施していくと承知しております。

いずれにしましても、福島復興再生にとっても、廃炉作業が安全かつ着実に進めていくことが大変重要であると感じております。

復興庁としても、引き続き関係省庁と連携して、福島の復興再生に向けて取り組んでまいりたいと思います。

(問) トリチウム水の海洋放出について、慎重なお立場を示されていると思うんですけれども、一方で、たまり続ける汚染水の今後の処理方法の決定についてですね、どのようなプロセスですとか、具体的にどうあるべきかというようなことがあれば、お考えをお聞かせください。

(答) まず昨日、私、委員会において発言をさせていただいた問題は、処理水の問題でなく、いわゆる汚染水についての発言であります。汚染水については海洋投棄すべきでないという趣旨で発言をさせていただきました。

処理水の取扱いについては、これまでも説明しているとおり、国に設置された小委員会、ここで検討を進めているわけですが、とりわけ、風評被害など社会的な観点を含めた総合的な議論が進められていると認識をしております。

したがって、この小委員会の状況を見守りたい、そのように思っております。

(以 上)